

認知症マフ作成に 取り組んでいます



認知症の方の不安や落ち着きのなさを軽減するための、柔らかくカラフルな筒状のニット製品です。身体拘束具の解除にもつながり、注目を集めています。

認知症マフは

認知症の方が手で触ったり、筒の中に手を入れたりして使用します。触覚や視覚への刺激を通じて認知機能の支援にもつながります。マフの中のアクセサリーを握ったり、自分の趣味や職業に関連したデザインを見たりすることで、過去を思い出すきっかけになることもあります。これらの刺激が脳の活性化を促し、認知機能の維持や改善に寄与する可能性もあります。



♥ 認知症マフに期待される効果 ♥

☆ ストレス軽減の助けになる

認知症患者は慣れない入院で、自分に起きている変化に不安を感じやすく、点滴やチューブ類が気になって、外してしまうことがあります。記憶が失われる一方で、感情が強く残りやすいです。落ち着ける素材のマフは、不安や恐怖などの強い感情を軽減できる可能性があります。

☆ 介助の助けになる場合がある

認知症の方の意識や、手でいじる対象がマフに落ち着くことで、介助がスムーズになる場合があります。認知症の方の行動が治療や身体に差し障るレベルになると、やむを得ずミトンなどで身体拘束を行う場合があります。マフを使用すれば拘束することなく、点滴やおむつを勝手に外してしまう行動を抑え、認知機能の支援になります。



なでっち

済生会公式キャラクター



マフ作りにご協力頂ける方募集中

『誰かの役に立ちたい』『認知症ケアの取り組みに興味がある』『編み物が得意』など、

認知症マフの作成にご協力いただける方や、資材（毛糸）等をご寄付いただける方を募集しています。ご協力くださる方がおられましたら、当院までご連絡ください。（代表 073-424-5185）



済生会和歌山病院 看護部 河原